

第3学年B・C組音楽科学習指導案

日 時：平成25年12月2日（月）5校時
場 所：隠岐の島町立西郷南中学校 音楽室
指導者：教諭 井奥 昇

1 題 材 名 混声四部合唱で「ふるさと」を魅力的に表現しよう

2 題材の目標

各声部の役割とそれらのかかわりによって生み出される全体の響きに関心を持ち、テクスチュア、強弱を知覚し、それらの特質や雰囲気を感じながら、音楽の構造を理解し、声部の役割を生かした音楽表現を工夫する能力を育てる。

3 題材設定の理由

(1) 題材について

「ふるさと」は、多くの人に幼い頃より親しまれている曲であるが、小学校でも共通教材として扱われているように、我が国にとって世代を超えて歌い継がれてほしい曲の一つである。歌詞は文語体にもかかわらず、堅苦しい雰囲気を感じさせず、しみじみとした郷愁を誘う曲である。歌詞の内容からはふるさとを遠く離れても困難に立ち向かい、いつかふるさとに錦を飾りたいという作者の強い思いがメッセージとなって伝わってくる。また、この曲は聴くだけで懐かしさがこみ上げてくるようなやさしい旋律をもち、独唱や斉唱はもとより、合唱や器楽演奏など様々な編曲で耳にされることが多い。

本題材では、A表現（1）ウを指導事項として位置づけ、指導事項を〔共通事項〕「テクスチュア」「構成」「強弱」としている。「ふるさと」は、もともと起承転結のわかりやすい構成で作られた楽曲である。黒部美樹編曲の混声四部合唱の「ふるさと」は、「テクスチュア」に着目すると曲の構造についても学習が深めやすい。特に9小節目からはソプラノから男声に主旋律を移したり、ハーモニーの厚みに変化をつけたりするなど、この編曲ではシンプルな旋律をより美しく、印象的な曲にする仕掛けが盛り込まれている。声部の役割と全体の響きとのかかわりの中で、それぞれの声部をどのように表現していくかを工夫していくのにとっても適した教材と言える。使用している教科書には1年生に二部合唱、2年生に三部合唱の編曲のものが用意されている。3年生用と記されている四部合唱編曲のものは、男子生徒の声が安定してくるこの時期に、充実したハーモニー感を育てるために、ぜひ触れさせたい教材である。

(2) 生徒について

3年B組24名（男子9名、女子15名）と知的障がい学級のC組男子1名（以下Aとする）は、歌唱活動において全体的に意欲のある生徒たちである。例年9月に生徒会主催で行われる夕暮れコンサートや10月の音楽会に向けて、各学級や全校で合唱に取り組む雰囲気があるため、混声合唱曲を歌うことには慣れている。このような経験から教師の助言・発問を通して、他声部とのかかわりを意識した歌い方はある程度できるが、音楽の構造を意識して主体的に考えて歌うことには弱さを感じる。また、混声四部合唱の編成についても1年生の時から全校合唱の取り組みの中で経験してきたが、男子の中には変声に応じて1、2年生の時からバスパートを担当したことのある生徒もいる。3年生になってからは全体的に男子の低い声安定してきており、混声合唱の中でも響きが目立つようになってきた。

強弱の記号については、小学校の時の既習事項として歌唱や器楽の際に度々使っているが、徹底して復習する機会をもたなかったため、記号の意味を誤って認識している生徒もいる。そのため、合唱練習を進める中で、強弱記号等を使いながら表現したいことを明確にイメージして歌おうとする生徒は全体的には少ない。

知的障がい学級のAは、音楽の授業を1年生の時から交流学級で活動してきた。合唱活動では曲の雰囲気に合わせて声を響かせて歌うことができる。交流学級との人間関係も良好で、授業でも周りの生徒が適宜フォローをする姿が見られる。

(3) 指導にあたって

本題材では、各声部の音のかかわりやテクスチュアを楽譜上や歌い合わせの中で感じ取らせ、それを音楽表現に生かしながら、生徒の音楽的視野を広げていきたい。学習形態は学級を四グループに分け、それぞれのグループの中で声の響きを確かめ、表現を深めさせていく。お互いの考えを取り入れながら、自分たちで曲をつくり上げていく喜びを感じてもらいたいと期待している。

1時間目には、まず和声的な重なり、多声的な重なりが特徴的な2つの合唱曲を聴取し、その違いを感じ取らせる。そして、主教材となる混声四部合唱版「ふるさと」を聴取することで、この曲の旋律の重なり方について関心をもたせながら、この曲のテクスチュアを大まかに捉えさせる。次時からはグループの少人数での活動が中心となるため、今後の学習の支えとなるように、まずは各声部で旋律を繰り返し歌い合わせ、

自信をもって歌えるように支援していくとともに、全体で歌い合わせる時には、他の声部とのかかわりを生徒が意識できるように助言する。

2時間目は混声三部合唱版と四部合唱版の比較聴取など音源を活用し、和音の厚みや声部のバランスについて生徒が知覚・感受したことを大切にしながら、各声部が調和するように四声体の響きを工夫させる。また、3段目からのテクスチュアの変化に着目し、曲の構造を大まかにとらえさせることで、次時の活動へとつなげる。

本時となる3時間目は、3段目の表現を工夫する活動を行う。生徒たちにとっては、何を手掛かりに考えを深めればいいのか難しいところがあると予想される。そこで、まず楽譜の9小節目からのテクスチュア、強弱、リズム等、楽譜上の変化のある部分を見つける活動を行い、表現の工夫につなげる手立てとする。また、表現方法を考える際にグループ活動の場面を設定したが、グループの話し合いを通して、生徒それぞれが考えを深めるような場としたい。

知的障がい学級のAに対しては、必要に応じてわかりやすく助言をしながら活動の充実を図るが、グループ員とのかかわりを通して、一緒に音楽をつくっていく楽しさを感じてもらいたい。

4時間目には、それぞれのグループで工夫して作り上げてきた「ふるさと」の発表の場を設定する。発表を通して、自分たちで工夫したことを思いや意図をもって表現できる喜びを味わってほしい。そして、学習を振り返りながら、生徒主体の表現活動が続けていけるようにしていきたい。

4 学習指導要領とのかかわり

(1) 本題材で指導する事項

A表現：歌唱	
ア	歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと。
イ	曲種に応じた発声により、言葉の特性を生かして歌うこと。
ウ	声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。

(2) 取り扱う主な〔共通事項〕

ア	音色	/
	リズム	/
	速度	/
	旋律	/
	テクスチュア	和声的な重なり、多声的な重なり
	強弱	曲にふさわしい強弱、他声部とのかかわりによる強弱の変化
	形式	/
	構成	/
イ	用語や記号	/

5 教材

「ふるさと」 高野辰之 作詞 岡野貞一 作曲 黒部美樹 編曲
 「大きな古時計」 保富康午 日本語詞 ワーク 作曲 長谷部匡俊 編曲
 「烏かねもん勘三郎」 広島地方わらべうた 間宮芳生 作曲

6 評価規準

(1) 領域・分野と評価の観点との関連

評価の観点 領域・分野	ア) 音楽への 関心・意欲・態度	イ) 音楽表現の創意工夫	ウ) 音楽表現の技能	エ) 鑑賞の能力
A・歌唱	○	○	○	
A・器楽				
A・創作				
B・鑑賞				

(2) 題材の評価規準

ア) 音楽への関心・意欲・態度	イ) 音楽表現の創意工夫	ウ) 音楽表現の技能
①各声部の役割とそれらのかかわりによって生み出される全体の響きに関心を持ち、主体的に合唱活動に取り組もうとしている。	①各声部の役割とそれらのかかわりによるテクスチャを知覚し、それらの特質や雰囲気を感じ取りながら、全体の響きを感じ取って調和を生かした音楽表現を工夫している。 ②テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、音楽の構造を理解し、声部の役割を生かした音楽表現を工夫している。	①声部の役割、テクスチャ、強弱を生かした音楽表現をするために必要な技能（発声、言葉の発音、呼吸法、身体の使い方など）を身につけて歌っている。

7 指導と評価計画（全4時間）

時	ねらい	○学習内容 ・学習活動	[共通事項]	評価	評価方法
1	○様々な合唱曲の聴取を通して、各声部の重なり方とそこから生み出される全体の響きの違いに関心をもつとともに、「ふるさと」について、他の声部とのかかわりを感じ取りながら、混声四部合唱で歌い合わせることができるようになる。	○「大きな古時計」と「烏かねもん勘三郎」を比較聴取することで、各声部が和声的に重なる時の響きと多声的に重なる時の響きの違いを感じ取り、そこから生み出される雰囲気の違いを感じ取る。 ・気付いたことや感じ取ったことを発表し、意見を全体で共有する。 ○混声四部合唱版の「ふるさと」について、他の声部とのかかわりを感じ取りながら、混声四部合唱で歌い合わせることができるようになる。 ・混声四部合唱版の「ふるさと」の聴取を通して、どのような重なり方で歌われているかを発表し、学級全体で意見を共有する。 ・各声部で「ふるさと」の音高やリズムを意識して歌い合わせる。 ・他の声部との重なり方を感じ取りながら、混声四部合唱の「ふるさと」を全員で歌い合わせる。	テクスチャ ↓	ア①	演奏の聴取
2	○各声部の役割とそれらのかかわりによるテクスチャを知覚し、それらの特質や雰囲気を感じ取りながら、全体の響きを感じ取って、調和を生かした音楽表現を工夫することができるようにする。（1、2段目を中心に）	○混声四部合唱版の「ふるさと」の各声部の役割とそれらのかかわりによるテクスチャを知覚し、それらの特質や雰囲気を感じる。 ・混声三部合唱版と混声四部合唱版の「ふるさと」を聴き比べて、その違いを知覚する。 ・各声部の1小節目から2小節目の音の移り変わりをワークシートで確認し、テクスチャの変化を感じ取る。 ・各声部のかかわりが1、2段目は和声的な重なりであるのに対して、3段目は多声的であることに気付く。 ○和声的な重なり方の時の各声部の役割や全体の響きを感じ取りながら、調和を生かした音楽表現を工夫する。	テクスチャ ↓	イ①	ワークシート①の記述 演奏の聴取

		<ul style="list-style-type: none"> ・和声的な重なり方の時の各声部の役割について話し合い、全体の響きを感じ取りながらグループで歌い合わせる。 ・時間経過とともに声部の織りなす関係を表す用語「テクスチュア」を確認する。 	<p>テクスチュア</p> <p>↓</p>		
3 (本時)	<p>○テクスチュア、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、音楽の構造を理解し、声部の役割を生かした音楽表現を工夫することができるようにする。(3段目を中心に)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○主旋律の移り変わりや強弱、9小節目からの変化を感じ取り、どのような変化があるのかを考える。 ・気付いたことや感じ取ったことをワークシートに記入する。 ・書き込んだ内容を発表し、学級全体で共有する。 ・共有した内容を意識して、全体で歌う。 ○テクスチュアや強弱など共有した内容をもとに声部の役割を生かした3段目の表現を工夫する。 ・他の段との違いを生かして表現を工夫し、ワークシートに書き込む。その際、思いや意図が明確になるように理由を合わせて書く。 ・記入したことをもとにグループで話し合い、歌い合わせる。 ・各グループで1番を全体に発表する。 ○学習の振り返りをする。 	<p>テクスチュア</p> <p>↓</p> <p>強弱</p> <p>↓</p>	イ②	ワークシート②の記述活動の様子を観察
4	<p>○各声部の役割、テクスチュア、強弱を生かした音楽表現をするために必要な技能(発声、言葉の発音、呼吸法、身体の使い方など)を身につけて歌い合わせることができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでに学習した内容をグループで振り返り、各声部の役割、テクスチュア、強弱を生かした音楽表現を工夫しながら、グループで歌い合わせる。 ・前時までに工夫してきた内容を確認し、3番まで通してグループで歌い合わせる。 ・グループごとに前時にまとめたプリントを黒板に掲示し、工夫した点を全体に紹介してから、発表する。 ○学習の振り返りをする。 	<p>テクスチュア</p> <p>↓</p> <p>強弱</p> <p>↓</p>	ウ①	演奏の聴取活動の様子を観察

8 本時の学習（本時3／4）

(1) ねらい

テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽の構造を理解し、声部の役割を生かした音楽表現を工夫することができるようにする。

(2) 本時の展開

	・学習活動 ◇予想される生徒の反応	・教師の支援	評価規準と方法
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・声部の役割を意識しながら「ふるさと」を歌う。 ①伴奏で歌う ②ア・カペラで歌う 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で学習したことを想起させるように支援する。 	
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを知る。 曲を魅力的にするために、3段目にどのような仕掛けをしているだろうか。 ・他の段との違いを見つけ、ワークシートに書き込む。【個人】 <ul style="list-style-type: none"> ◇主旋律のパートが男子 ◇三部合唱になっている ◇音量が p から始まっている ◇リズムが違う ◇八分音符が多い ◇スラーが多い ・書き込んだ内容を発表し、学級全体で共有する。【全体】 ・共有した内容の中から3段目の最初が p になっていることに着目し、意識して全体で歌ってみる。 違いを生かして、3段目の歌い方を考えよう。 ・強弱を中心とした3段目の表現を考え、ワークシートに書き込む。【個人】 <ul style="list-style-type: none"> ◇「♪め〜ぐ〜り〜て」をふくらませる。 ◇男子パートは少し目立たせて歌う。 ◇スラーを意識してなめらかに歌う。 ・記入したことをもとにグループで意見交換をする。(司会者が進行する)【グループ】 ・意見の中でみんなが共感した考えをもとに歌い合わせる。 ・グループごとにその場で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・起承転結の4コマ漫画を提示し、「ふるさと」の「転」の部分を考えていくことをわかりやすく伝える。 ・生徒の意見を黒板にまとめ、どの要素に着目したのか、整理する。 ・黒板でまとめた9小節目からの仕掛けを参考にして、考えを進めるように助言をする。 	イ② ワークシートの記述 活動の様子の観察
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・声部の役割を生かした音楽表現を共有したことで、気付いたことや音楽表現のよさについて振り返らせる。 	

(3) 本時の評価【音楽表現の創意工夫】イ②

テクスチャ、強弱を知覚し、特質や雰囲気を感じながら、音楽の構造を理解し、声部の役割を生かした音楽表現を工夫している。

生徒の姿 評価の観点	十分満足できると 判断される生徒の姿の具体例	おおむね満足できると 判断される生徒の姿の具体例	努力を要すると判断される 生徒の姿の具体例と支援
音楽表現の 創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> 強弱記号を手掛かりに3段目の始めは1, 2段目と差をつけ、そこから主旋律の音域の変化に合わせて、声部ごとに細かく強弱を変化させ、表現を工夫している。 テクスチャの変化を手掛かりに主旋律と副旋律の音量のバランスに変化をつけ、それぞれの声部の旋律がかかわり合うように表現を工夫している。 強弱記号を質的に捉え、<i>p</i>の時にも歌詞が明確になるように意識しながらも他の声部との調和した歌い方を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 強弱記号を手掛かりに3段目の始めは1, 2段目と差をつけ、そこから主旋律の音域の変化に合わせて強弱を変化させ、表現を工夫している。 テクスチャの変化を手掛かりに主旋律と副旋律の音量のバランスに変化をつけ、それぞれの声部について表現を工夫している。 強弱記号を質的に捉え、<i>p</i>の時にも歌詞が明確になるように歌い方を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 他のパートの音や楽譜の記号を意識することなく、表現をしようとしている。 →黒板のまとめを参考にどの視点で工夫していくかを助言し、イメージをもたせる。

【特別支援学級Aの本時の授業で期待する姿】

グループで相談したり歌い合わせたりしながら、どのような声量で歌うかを意識している

9. 教師の視点

- 視点1 ・課題提示や教師の発問は、生徒の曲の表現を工夫するための手立てとして有効であったか
 視点2 ・グループ活動を取り入れたことは、生徒それぞれの考えを明確にするために有効であったか。

音の重なり方を調べてみよう

() 年 () 組 () 番 氏名

○「♪お～」の部分以降の音の重なり方はどのようになっているのでしょうか。気がついたことを書きましょう。

♩=80~88
mf

A

○1, 2段目のような声部の重なり方でハーモニーを作るときにどんなことを意識して歌えばよいでしょうか。

○3段目の音の重なり方はどのようになっているのでしょうか？

音の重なり ()
2つ以上の旋律のずれ ()
など

音の連なりや織りなす関係
表す用語

1 段目 (起)

♩=80~88
mf

2 段目 (承)

3 段目 (転)

4 段目 (結)

mf

探してみよう！
3段目の仕掛け

○曲に変化をつけるために、3段目ではどのような仕掛けをしているでしょうか。楽譜や記号を見ながら、他の段との違いを探してみよう。(例：スラーがたくさんついている)

他の段との違い 1

他の段との違い 3

他の段との違い 2

他の段との違い 4

違いを生かしながら
3段目を魅力的に仕上げよう

○3段目と他の段との違いを生かしながら、3段目がもっと魅力的になるように表現を工夫しましょう。
※どのように歌うのか、楽譜の部分を示してできるだけ詳しく書きましょう。
(例：アルトの「AH～」はソプラノと強弱を合わせ、響かせて歌う。ソプラノと動きが違う部分は目立つように歌う)

表現の工夫 その①

このように考えた理由

表現の工夫 その②

このように考えた理由